



# 最先端の場で活躍できる医師になるために 英語5技能を総合的に高める 学習環境を

医療の現場にもグローバル化の波が押し寄せている。そんな時代の中高生が、医学部合格にとどまらない本物の英語力を身につけるにはどうすればよいのか。小中高生を対象とした「J PREP 齊藤塾」の代表である齊藤淳氏と、同塾の〈国内難関大学受験コース〉でTA（ティーチング・アシスタント）を務める4人の東大医学部生、そして、この春、医学部に進学した3人の卒業生が語り合った。

## 東大医学部生TA座談会

**藤原 実咲** 医学英語の授業が週1回あります。齊藤 塾では、皆さんが読むテキストや論文で、英語で書かれた文献はどのくらいありますか。

**吉岡 玲央** テキストは日本語のものもありますが、論文に関しては、邦訳も

**森田 泰斗** 『TED』※の講演などを聞いて英語でディスカッションしたりしますが、それは大学でしかできないような授業です。

**田村 旺子** 高校時代にJ PREPのような英語塾があればよかったですね。

**吉岡 玲央** 授業でいいと思うのは、先生1人に生徒が少人数でテーブルを囲んでディスカッションできる点。疑問に思ったことも、その場ですぐに聞くことができます。

**森田 泰斗** 一般的な英語の授業では、スピーキングやリスニングは学ぶ分野の一つとしてありますが、J PREPではスピーキングもリスニングも教室の場に当然のこととしてあります。それが大きなことだと思います。

**齊藤 淳** 少人数でテーブルを囲み英語でディスカッション  
今日は、J PREPの難関大学受験コースの授業でTAを務める東大医学部4年の皆さんが集まってもらいました。皆さんが受験生だったころに受けていた英語の授業と、J PREPが行っている「話す」「書く」「読む」「聴く」に「考える」を加えた5技能を鍛える授業では、何がちがう違うと思いますか。

**保住 英希** 僕は中3の秋に入りましたが、そのころはまだ医学部受験を考えていたわけではなく、英語を学ぶという目的だけで通っていました。すると、高1の途中くらいで医学部を目指すレベルに英語力が上がったんです。選んだ理由は、受動的な授業ではなく、自分が発言して学べる点に魅力を感じたからです。医学部入試の英語は「読む」「書く」が

**坂本 凧紗** 私は「読む」「書く」が得意で、高2の12月です。小さいころから医師を目指していたので、もっと英語も勉強しなければと思っていたのですが、自分に合う英語塾はなかなか見つかりませんでした。なぜなら、先生の授業を聞くだけの塾が多く、それでは本当の力がつかないと思ったから。ところが、友人の勧めで体験授業を受けたとき、「ここだ」と思いました。一般的にネイティブの先生の授業は「遊び」のような授業になりがちですが、J PREPでは自分で発信しなければなりませんし、スピーキングやリスニングの能力を鍛えるだけでなく、日本人の先生からきちんと文法の指導も受けられます。そうした点が決め手になり、入塾を決めました。

**足立 健一郎** 僕は中3の初めから学んでいます。当初はまだ医学部受験を意識してはなかったのですが、自分には英語が得意なわけではなく、社会へ出てからも使える英語力を身につけたいと思って、入塾しました。

**保住 英希** 私が通い始めたのは、高2の12月です。小さいころから医師を目指していたので、もっと英語も勉強しなければと思っていたのですが、自分に合う英語塾はなかなか見つかりませんでした。なぜなら、先生の授業を聞くだけの塾が多く、それでは本当の力がつかないと思ったから。ところが、友人の勧めで体験授業を受けたとき、「ここだ」と思いました。一般的にネイティブの先生の授業は「遊び」のような授業になりがちですが、J PREPでは自分で発信しなければなりませんし、スピーキングやリスニングの能力を鍛えるだけでなく、日本人の先生からきちんと文法の指導も受けられます。そうした点が決め手になり、入塾を決めました。

**齊藤 淳** 話すことができるようになるには、医学部受験に必要な読む力も伸びる。齊藤 塾では、皆さんが読むテキストや論文で、英語で書かれた文献はどのくらいありますか。

**吉岡 玲央** テキストは日本語のものもありますが、論文に関しては、邦訳も

## J PREP卒業生座談会

**足立 健一郎** 僕は中3の初めから学んでいます。当初はまだ医学部受験を意識してはなかったのですが、自分には英語が得意なわけではなく、社会へ出てからも使える英語力を身につけたいと思って、入塾しました。

**保住 英希** 私が通い始めたのは、高2の12月です。小さいころから医師を目指していたので、もっと英語も勉強しなければと思っていたのですが、自分に合う英語塾はなかなか見つかりませんでした。なぜなら、先生の授業を聞くだけの塾が多く、それでは本当の力がつかないと思ったから。ところが、友人の勧めで体験授業を受けたとき、「ここだ」と思いました。一般的にネイティブの先生の授業は「遊び」のような授業になりがちですが、J PREPでは自分で発信しなければなりませんし、スピーキングやリスニングの能力を鍛えるだけでなく、日本人の先生からきちんと文法の指導も受けられます。そうした点が決め手になり、入塾を決めました。



授業はチーム・ティーチング形式で行われ、英語のみを用いて積み重ねる練習と、日本語での補足説明のバランスに注意して指導している。

**藤原 実咲** 私が受験生のころは、高校や塾などの身近なところに、東大・京大の医学部に進学した先輩がいました。だから、自分もそうなりたと思って、がんばることができました。受験では、実際に経験をした人の話を聞くことが大事だと思っています。高校生の皆さんには、先輩たちがやってきたことを参考にしてみてください。

**齊藤 淳** 臨床医も研究医も  
英語力がなければ活躍できない  
医師になっても、学会で症例報告を英語で行ったり、基礎研究の論文を英語でプレゼンしたりと、英語を使う機会が多いものです。臨床である研究であれば、アメリカの大学に滞在することもよくあり、私がイェール大学で教えている間も、英語で苦労している日本人医療関係者をたくさん見

**吉岡 玲央** 大学のプログラムでも、5年生になると、春休みなどを利用して海外の病院で仕事を手伝う機会があります。その際も、英語でコミュニケーションがきちんと取れなければ何もできないでしょう。私は研究のほうにも興味があり、将来、学会でのプレゼンを英語で行う機会ができたときに英語が話せないとなると、質疑応答など、特に相互のコミュニケーションを図る際に、とても困ることになると思っています。

**森田 泰斗** 試験でも、解剖用語などはすべて英語を併記しないと点数がもらえません。

**齊藤 淳** 確かに、それがわからないと論文一つ読めないわけです。東大は最近英語教育を変えようとして努力していて、特に文献を引用して自分で論文を書く「リサーチ・ライティング」に、かなり力を入れている印象があります。大学に入ってから戸惑うより、高校生のうちから同じようなスタイルで勉強したほうが良いと思います。

**保住 英希** 私は「読む」「書く」が得意で、高2の12月です。小さいころから医師を目指していたので、もっと英語も勉強しなければと思っていたのですが、自分に合う英語塾はなかなか見つかりませんでした。なぜなら、先生の授業を聞くだけの塾が多く、それでは本当の力がつかないと思ったから。ところが、友人の勧めで体験授業を受けたとき、「ここだ」と思いました。一般的にネイティブの先生の授業は「遊び」のような授業になりがちですが、J PREPでは自分で発信しなければなりませんし、スピーキングやリスニングの能力を鍛えるだけでなく、日本人の先生からきちんと文法の指導も受けられます。そうした点が決め手になり、入塾を決めました。

**坂本 凧紗** 私は「読む」「書く」が得意で、高2の12月です。小さいころから医師を目指していたので、もっと英語も勉強しなければと思っていたのですが、自分に合う英語塾はなかなか見つかりませんでした。なぜなら、先生の授業を聞くだけの塾が多く、それでは本当の力がつかないと思ったから。ところが、友人の勧めで体験授業を受けたとき、「ここだ」と思いました。一般的にネイティブの先生の授業は「遊び」のような授業になりがちですが、J PREPでは自分で発信しなければなりませんし、スピーキングやリスニングの能力を鍛えるだけでなく、日本人の先生からきちんと文法の指導も受けられます。そうした点が決め手になり、入塾を決めました。

**足立 健一郎** 僕は中3の初めから学んでいます。当初はまだ医学部受験を意識してはなかったのですが、自分には英語が得意なわけではなく、社会へ出てからも使える英語力を身につけたいと思って、入塾しました。

**齊藤 淳** 臨床医も研究医も  
英語力がなければ活躍できない  
医師になっても、学会で症例報告を英語で行ったり、基礎研究の論文を英語でプレゼンしたりと、英語を使う機会が多いものです。臨床である研究であれば、アメリカの大学に滞在することもよくあり、私がイェール大学で教えている間も、英語で苦労している日本人医療関係者をたくさん見

**吉岡 玲央** 大学のプログラムでも、5年生になると、春休みなどを利用して海外の病院で仕事を手伝う機会があります。その際も、英語でコミュニケーションがきちんと取れなければ何もできないでしょう。私は研究のほうにも興味があり、将来、学会でのプレゼンを英語で行う機会ができたときに英語が話せないとなると、質疑応答など、特に相互のコミュニケーションを図る際に、とても困ることになると思っています。

**森田 泰斗** 試験でも、解剖用語などはすべて英語を併記しないと点数がもらえません。

**齊藤 淳** 確かに、それがわからないと論文一つ読めないわけです。東大は最近英語教育を変えようとして努力していて、特に文献を引用して自分で論文を書く「リサーチ・ライティング」に、かなり力を入れている印象があります。大学に入ってから戸惑うより、高校生のうちから同じようなスタイルで勉強したほうが良いと思います。

**保住 英希** 私は「読む」「書く」が得意で、高2の12月です。小さいころから医師を目指していたので、もっと英語も勉強しなければと思っていたのですが、自分に合う英語塾はなかなか見つかりませんでした。なぜなら、先生の授業を聞くだけの塾が多く、それでは本当の力がつかないと思ったから。ところが、友人の勧めで体験授業を受けたとき、「ここだ」と思いました。一般的にネイティブの先生の授業は「遊び」のような授業になりがちですが、J PREPでは自分で発信しなければなりませんし、スピーキングやリスニングの能力を鍛えるだけでなく、日本人の先生からきちんと文法の指導も受けられます。そうした点が決め手になり、入塾を決めました。



授業ではディスカッションと作文演習を通じ、表現力を身につけるための地道な努力を行っている。

※Technology Entertainment Designの略で、カナダのバンクーバーで毎年大規模な講演会を主催している非営利団体。アメリカのニューヨーク市に本部がある。